

山口県立萩美術館・浦上記念館は、萩の実業家の浦上敏朗氏（1926－）の寄贈を契機として創設したもので、彼の広範なコレクションを基にして、さらに浮世絵、東洋陶磁、陶芸、工芸作品を収集し、一般に公開展示している。美術館は2つの建物からなっており、本館は1996年に建設され、2010年に陶芸館が増設された。

本館1階には、二つの展示室があり、5,500点を越す浮世絵と約600点の東洋陶磁から、テーマ別に約30点のコレクションが展示されている。大きな展示室を通り抜けると2つの小さな展示室がある。1つは浮世絵が1ヶ月間展示されている「特別鑑賞室」である。興味深いのは、部屋の壁は、浮世絵の版画に使われたのと同じ木材の桜材が使用されている。隣には小さな茶室があり、ここでは1年間、1人のアーティストの作品が展示されている。このフロアには、ギフトショップ、参考文献コーナー、講堂、カフェも備わっている。本館2階の4つの展示室は特別展示に使用される。

陶芸館は、萩焼を中心とした“やきもの”や“工芸作品”に焦点を当てたものである。1階では訪問者は、萩焼の製造過程についての短いビデオを見ることができる。